

趣旨

吾瀆の地や南を駿懸たる所瀆の連山を控へ北を風光富に

冠たる瀆の内海を望み山紫水明自ら秀麗の天

地を作れ淑氣の鍾り英靈の化せり斯く爰に

偉大なる文藝美術の場とよ起るべきの地たるを我々

不肖此美志を瀆の中央國魂と稱へらるる飯山此

麓に生れ、幼くして繪畫が好み、嘗て筆硯を
友として、此山河に勝たねきを、是に自ら抱負を
所あり、後ち此を、東京に遊じ、本邦美術の
発展に志し、乃ち日本美術院に學ぶに次ぎ
、高橋本雅邦先生の門に入り、一志研習、以て
今日に至る。此間既と各種覽収會に於て

優貴に受けあへず屢阿王に此水は是水未だ
初の一步のみ前途方遠遠より新道の温
奥に究むるを容易の業にあらん爾後を磨
勵自ら鞭撻に加へ頓て彼岸に到達せん
えあらん

茲は先輩諸氏の賛助を得て秀南畫館なるもの

を興し廣く同ぬの士が義を為し熱誠なる製作を
頒ち大に江海の清澗を仰るんと欲する大方の士君子
幸しよ不肖の微衷を酌み投函誘導の芳を惜む
あらん事切望の至と堪へ

會主尾崎香南



賛助

横山大観



賛助

三島雄



賛助

橋本秀雄



賛助

下村 觀山



賛助

三木 幸太郎



賛助
植田 竹次郎



特別賛助會員

鎌田勝太郎

和光寺

中西孫太郎

洪尾等

西為欣書

生何見

省報書

木那其志



塩田時敏

泰山王居



中野席吉



秋山方卷

三輔田元道

加改壽衛吉

牧野謙次郎

渡邊三吉

清野長郎